

MROC参加者から もっと話を聞きたい

疾病患者に対するMROC&オンラインデプスインタビュー

<背景と課題>

新しい定性調査手法として注目されているMROC。製薬メーカーをクライアントに持つ某広告代理店は、ある疾病をもつ患者コミュニティを立ち上げ、その疾病の治療方法や治療薬に対する不安や悩みをあぶりだし、クライアントメーカーの広告戦略立案に役立てようと考えていました。

MROCを運営していくうちに、もっと詳しく話を聞きたいと思う参加者が出てきましたが、オンライン上のテキストのやりとりだけでは中々話が進みません。かといって全国に散らばるMROC参加者、ましてや疾病を抱えている人たちを会場に呼んでインタビューすることなど不可能なので、何か良い方法がないか頭を悩ませていました。



<ご提案内容>

MROCに参加していて詳しい話を聞きたいメンバーにオンラインデプスインタビューを依頼しました。

<結果>

普段は外出もままならない疾病をもつ全国に在住するコミュニティメンバーにインタビューをすることが出来ました。インタビューは複数回にわたって行われましたが、インタビューを重ねるごとに、インタビューとそのメンバーとの距離が縮まり、インタビューはホンネを引き出すことができるようになりました。



<ココがポイント>

近年、MROCを実施する場合、オンライン上のテキストだけでのやりとりだけでは不十分で会場インタビューを組み合わせるケースが増えているようです。しかしながら会場インタビューは参加者が首都圏に限られる、複数回のインタビューしにくい等の弱点があります。そこでオンラインインタビューを利用いただくと、会場インタビューと同等クオリティのインタビューが実施でき、かつ

- 全国の参加者にインタビューできる
 - 複数回インタビューが可能
 - 参加者の自宅の様子が見える
- 等のアドバンテージのあるインタビューを実施することができます。